
【JEC-ET】 020101

One More Paragraph!

- J E C の脈絡における福音主義神学的思索のひとつ -

作成日：2002年4月6日(土)

こんにちは、関西聖書学院「福音主義神学」教師、一宮基督教研究所の安黒務です。J E C の源流と歴史的遺産をさぐるために、今週は宇田進先生の「福音主義キリスト教と福音派」の「第二章 福音派の源流と歴史的遺産：第一項目 重要な三つの要素」のテキストから一回目の学びをいたしましょう。

【テキスト】

さきに、「エバンジェリカル」という名称は、「喜ばしい知らせ」、あるいは「福音」を意味する新約ギリシャ語の「ユアングリオン」にさかのぼることから、福音派とはごく一般的には「福音に献身している者」を意味しているという定義にふれた。

【解説】

「J E C 日本福音教会」の中心部分にあります「福音」、つまり「エバンジェリカル」という名称の意味につきましては、多くの誤解があるように思います。よく「福音派」対「カリスマ派」というかたちで対比されます。そして、J E C は「カリスマ派」の一員として分類されるというかたちです。しかし、この対比にはよくよく注意しなければならない盲点があります。それを明らかにしたいと思います。

この対比においては、一体何が対比されているのでしょうか。それは、神学的に言いますと、まず教理的に「聖書論、神論、人間論、キリスト論、聖霊論、救済論、教会論、終末論」の**ほとんどにおいて共通の教理を保持している**ことを確認したいと思います。そして、これらの伝統的で正統的な教理に立つ人々を「福音派」と呼びます。そして、そのような理解の上に「保守的な立場を踏襲する福音派」の人たちと「カリスマ的な経験を受容する福音派」の人たちがいるということを知ることが大切です。

もし、そのような理解に立たないで、あらゆる教理と実践において「福音派」対「カリスマ派」という対比を考えるとしたら、「カリスマ派」は伝統的・正統的教理にたつ福音派に対抗して存在する群れとして、問題のある集団となるでしょう。

しかし、事実はそうではありません。多様性を宿すモザイクとしての福音派の全体は、**ほとんどの教理において共通の理解**をもっています。といたしますのは、福音派の人々は「神に靈感された書物としての共通の聖書観」を保持しており、共通の情報からほぼ共通の「伝統的・正統的教理」を結実させています。枝葉末節においては多様な解釈も存在しますが、それらは聖書の啓示が許容している範囲の中で考慮されるべきものです。

その相違点は、聖霊論の「人格論」と「みわざ論」では共通の理解に立っていますが、「今日におけるクリスチャン生活や教会生活、そして宣教の戦いにおいて、超自然的なみわざを日常的に体験できるかどうか。」というごく狭い領域において相違があるということです。
